

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	春草・郷土作家調査研究保管事業				財務会計上の位置付け	会計	1	款	10	項	5	目	6	細目	11	細々目	6	19予算額(千円)	2,297	
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目															
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり																			
施策	62 地域資源の資産化																			
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等	・特別展示 ・平常展示 ・地域史研究事業													
		事業期間	1	年度～	年度															

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・飯田市美術博物館所蔵の美術作品	所蔵作品数(点)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする		
			2665	2700			
	・調査・研究し、活用できる状態にする。	調査研究し、活用を可能にした所蔵作品の総数(点)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・調査・研究し、活用できる状態にする。	調査研究し、活用を可能にした所蔵作品の総数(点)	18目標	1260	最終目標		
			18実績	1272	19目標	1300	↑
			23目標	2000	23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
18実績				19目標		↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	菱田春草と美術院作家、および当地にゆかりの作家たちの作品を調査・研究、保管する。また、それに関わる二次資料・文献資料等を収集する。	美術作品の調査・研究と、美術分野に関する二次資料・文献資料を収集する。	調査した作品の数(点)	12
		文献資料については、菱田春草関係の文献を中心に、館蔵品に関わる分野に視点を定めて収集する。作品資料については、寄贈申し出作品などに対し、収集基準に基づいて時に即した対応を心がけ、春草については、代表作品クラスの取得計画を長期的に進めていく。また館蔵品について、表装替、額の新調などの保存管理をおこなう。調査研究については、菱田春草をはじめ郷土作家にも主体を据えて進めていく。	調査した作品の数(点)	12

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	2,297	2,297
	事業費計(A)	2,297	2,297
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,512	19年度 1,512
	臨時職員等所要時間	720	720
	人件費計(B)	6,181	6,181
	トータルコストA+B	8,478	8,478

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	価値が潜在化され高まる 地域資産が認知される	活用できる状態の整った地域資産の数(累計件)	現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	520
	地域資産を知った市民の割合(%)	地域資産を知った市民の割合(%)	現状値	42	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	50	

<b>この事業を開始したきっかけ</b>	<b>事業を取り巻く状況の変化</b>	<b>事業に対する市民や議会の意見</b>
平成元年の美術博物館開館時において、美術部門がおこなう調査・研究・保管事業として開始された。	芸術分野は、表現の多様化から、多岐にわたるようになり、対象すべき分野が拡大している。	菊慈童募金の活動にみられるように、飯田においては美術文化の重要性が広く認識されている。文化都市としての市民の誇りも高く、これを示す質問や意見が当館に寄せられており、特に菱田春草作品の展示を求める要望が多い。また議会からも春草作品の充実を求める声があげられている。

### 【See】18年度の振り返り

<b>目的妥当性評価</b>	<b>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</b>	(評価) <b>結びつく</b> (その理由)	<b>有効性評価</b>	<b>成果をさらに向上させる余地はありますか？</b>	(評価) <b>余地がある</b> (その理由)
	<b>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</b>	(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)		<b>廃止・休止した場合の影響はありますか？</b>	(評価) <b>影響あり</b> (その理由)
	<b>意図の見直しの必要性はありますか？</b>	(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)		<b>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</b>	(評価) <b>類似事業なし</b> (類似事業名、理由)
	<b>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？</b>	(評価) <b>必要ある</b> (その理由)		<b>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</b>	(評価) <b>不可能</b> (その理由)
			<b>公平性評価</b>	<b>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</b>	(評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由)

### 【Plan】改革改善

<b>今後の事業の方向性</b>	<b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b>
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	本事業は美術館活動を支えるものであるため、作品の調査研究や維持管理を中心とした方針は従来を踏襲している。ただし近年、あらたに陶磁器や工芸品、写真などの分野が拡大しているため、これらに関わる二次資料の収集にも意を払っている。当館にはより多くの情報が蓄積されてゆくことになる。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	二次資料(書籍類)は、レファランスで市民も活用できるようなものを中心に収集するよう努めている。

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	